

## ばい煙発生施設設置(使用、変更)届出書

〇〇年〇〇月〇〇日

川越市長 殿

氏名又は名称及び住所並びに法人にあってはその代表者の氏名  
届出者  
(電話番号)

〇〇株式会社  
〇〇県〇〇市〇〇1-1-1  
代表取締役 〇〇 〇〇  
〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

大気汚染防止法第6条第1項(第7条第1項、~~第8条第1項~~)の規定により、ばい煙発生施設について、次のとおり届け出ます。

工場又は事業場の名称	〇〇株式会社 〇〇工場	※整理番号	
工場又は事業場の所在地	川越市〇〇1-2-3	※受理年月日	年 月 日
ばい煙発生施設の種類	第1項 ボイラー 2基	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px;">                     ・大気汚染防止法施行令別表第1で定められている項番号、名称及び基数を記入                      ・異なる種類の施設を設置する場合には別々に届出を作成                 </div>	
ばい煙発生施設の構造	別紙1のとおり。		
ばい煙発生施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※審査結果	
ばい煙の処理の方法	別紙3のとおり。	※備考	

- 備考 1 ばい煙発生施設の種類欄には、大気汚染防止法施行令別表第1に掲げる項番号及び名称を記載すること。  
 2 ※印の欄には、記載しないこと。

- 3 添付書類  
 4
- ① ばい煙発生施設の構造及び主要寸法を記載した概要図
  - ② ばい煙処理施設の構造及び主要寸法を記載した概要図  
(測定口等の位置を明記すること)
  - ③ 排ガスの発生及び処理に係る操業系統の概要図
  - ④ 燃料成分表
  - ⑤ ばい煙の発生、処理に係る計算書
  - ⑥ 参考事項(製造工程、工場までの案内図及び工場配置図 等)

・工場・事業場で使用している施設番号を記入  
 ・無ければ通し番号を記入

ばい煙発生施設の構造

使用及び変更届の場合のみ記入  
 (設置届の場合には記入不要)

工場又は事業場における施設番号		1号	
名称及び型式		〇〇製 小型貫流ボイラー ABC-10型	
設置年月日		年 月 日	年 月 日
着手予定年月日		〇〇年 〇月 〇日	年 月 日
使用開始予定年月日		〇〇年 〇月 〇日	年 月 日
規	伝熱面積(m <sup>2</sup> )	9.4	
	燃料の燃焼能力 (重油換算L/h)	110.0	
	原料の処理能力(t/h)		
	火格子面積又は羽口面断面積 (m <sup>2</sup> )		
	変圧器の定格容量(kVA)		
触媒に付着する炭素の燃焼能力 (kg/h)	該当する施設規模の欄に記入 (カタログ、仕様書等で確認してください)		
模	焼却能力(kg/h)		
	乾燥施設の容量(m <sup>3</sup> )		
	電流量(kA)		
	ポンプの動力(kW)		
	合成・漂白・濃縮能力(kg/h)		

設置届の場合に記入

- 備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、変更届出の場合には設置年月日、着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。
- 2 規模の欄には、大気汚染防止法施行令別表第1の中欄に掲げる施設の当該下欄に規定する項目について記載すること。
- 3 ばい煙発生施設の構造概要図を添付すること。概要図は、主要寸法を記入し、日本産業規格A4の大きさに縮小したもの又は既存図面等を用いること。

ばい煙発生施設の使用の方法

施設を最も多く使用する期間における平均的な使用状況を記入

工場又は事業場における施設番号		1号			
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	9時～17時		時～時	時
	季節変動	なし			
原材料(ばい煙の発生に影響のあるものに限る。)	種類				
	使用割合				
	原材料中の成分割合(%)	いおう分 カドミウム分	鉛分 弗素分	いおう分 カドミウム分	鉛分
	1日の使用量				
燃料又は電力	種類	A重油			
	燃料中の成分割合(%)	灰分 0.01	いおう分 0.1	窒素分 0.01	灰分
	発熱量	45000kJ/kg			
	通常の使用量	80L/h			
	混焼割合	専燃			
排出ガス量 (m³/h)	湿り	最大 1500	通常 1200	最大	通常
	乾き	最大 1300	通常 1000	最大	通常
排出ガス温度(℃)		150			
排出ガス中の酸素濃度(%)		5.0			
ばい煙の濃度	ばいじん(g/m³)	最大 0.10	通常 0.07	最大	通常
	いおう酸化物(容量比ppm)	最大 150	通常 150	最大	通常
	カドミウム及びその化合物(mg/m³)	最大	通常	最大	
	塩素素(mg/m³)	最大	通常	最大	通常
	塩化水素(mg/m³)	最大	通常	最大	通常
	弗素、弗化水素及び弗化珪素(mg/m³)	最大	通常	最大	通常
	鉛及びその化合物(mg/m³)	最大	通常	最大	通常
	窒素酸化物(容量比ppm)	最大 80	通常 80	最大	通常
ばい煙量	いおう酸化物(m³/h)	最大 0.25	通常 0.25	最大	通常
参考事項					

季節変動がある場合に記入  
例:冬期(12~3月)のみ

燃料成分表の数値を記入  
※ただし、そのまま記入するのではなくその保証値を記入

設計値又は実測値を記入

- 備考 1 原材料中の成分割合(%)の欄及び燃料中の成分割合(%)の欄の記載にあたっては、重量比%又は容量比%の別を明らかにすること。
- 2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態(この項において「標準状態」という。)における量に、ばい煙の濃度については、標準状態における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとす。
- 3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。
- 4 ばい煙の濃度は、ばい煙処理施設がある場合は、処理後の濃度とすること。
- 5 参考事項の欄には、ばい煙の排出状況に著しい変動のある施設についての一工程中の排出量の変動の状況、窒素酸化物の発生抑制のために採っている方法等を記載するほか、ガスタービン、ディーゼル機関、ガス機関又はガソリン機関については、常用又は非常用(専ら非常時において用いられるものをいう。)の別を明らかにすること。

ばい煙の処理の方法

ばい煙処理施設の工場又は事業場における施設番号		1号	
処理に係るばい煙発生施設の工場又は事業場における施設番号		1号	
ばい煙処理施設の種類、名称及び型式		煙突	
設置年月日	年 月 日		
着手予定年月日	〇〇年 〇月 〇日		
使用開始予定年月日	〇〇年 〇月 〇日		
処理能力	排出ガス量 (m³/h)	最大	
		通常	
	排出ガス温度 (°C)	処理前	
		処理後	
	ばいじん (g/m³)	処理前	
		処理後	
	いおう酸化物 (容量比ppm)	処理前	
		処理後	
	カドミウム及びその化合物 (mg/m³)	処理前	
		処理後	
	塩素 (mg/m³)	処理前	
		処理後	
	塩化水素 (mg/m³)	処理前	
		処理後	
	弗素、弗化水素及び弗化珪素 (mg/m³)	処理前	
		処理後	
	鉛及びその化合物 (mg/m³)	処理前	
		処理後	
	窒素酸化物 (容量比ppm)	処理前	
		処理後	
ばい煙量	いおう酸化物 (m³/h)	最大	処理前
		通常	処理後
		最大	処理前
		通常	処理後
捕集効率(%)	ばいじん		
	いおう酸化物		
	カドミウム及びその化合物		
	塩素		
	塩化水素		
	弗素、弗化水素及び弗化珪素		
	鉛及びその化合物		
	窒素酸化物		
使用状況	1日の使用時間及び月使用日数等	9時～17時 3時間/回 2回/日 20日/月	時～時 回/回 回/日 日/月
季節変動		なし	
排出口の実高さH <sub>o</sub> (m)×頂口径(m)	21.0×0.5(傘なし)		
補正された排出口の高さH <sub>e</sub> (m)	22.0		
排出速度 (m/s)	1.5		

工場・事業場の処理施設(煙突等)に対して通し番号で記載し、番号が重複しないようにしてください。  
※複数のばい煙発生施設に対して1つの煙突等がある場合には同じ番号になります。

処理施設を設置している場合に記入  
(煙突のみの場合には記入不要)

地上からの煙突の高さ、頂部口径及び傘の有無について記入

傘がある場合には補正の必要はありません

備考 1 設置届出の場合には着手予定年月日及び使用開始予定年月日の欄に、使用届出の場合には設置年月日の欄に、使用開始予定年月日の欄に、それぞれ記載すること。  
2 排出ガス量及びばい煙量については、温度が零度であつて圧力が1気圧の状態(この項において「標準状態」)における排出ガス1立方メートル中の量に、それぞれ換算したものとする。  
3 ばい煙の濃度は、乾きガス中の濃度とすること。  
4 補正された排出口の高さH<sub>e</sub>は、大気汚染防止法施行規則第3条第2項の算式により算定すること。  
5 ばい煙処理施設の構造図とその主要寸法を記入した概要図を添附すること。